




インフォメーション・コーナー

会 告

○「大地とともに一ある農用地技術集団の55年―」の刊行について(再)	72
○学会誌および論文集の英文名変更について(再)	72
○論文集のJ-STAGE(電子ジャーナル)公開と投稿時の振込金について(再)	72
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	73
○「農業農村工学会学術基金」への募金について	73
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	73
○四季折々の美しい農村地域における農業施設・構造物で表紙を飾ろう!! 「水土の知(農業農村工学会誌)」平成24年秋季～冬季の表紙写真の募集	74
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	75
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	75
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ	76
○水土文化研究部会第8回研究会の開催について(第2報) 	77
○第48回材料施工研究部会シンポジウムの開催について(第3報) 	77
○農村計画研究部会第33回現地研修集会の開催について(第1報) 	78
農業農村工学会論文集第271号内容紹介	79
学会記事	81

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成23年2月19日	農業水利研究部会	平成22年度研究集会	 環境用水取得の効果と課題	東京都	79巻1号
平成23年3月1日	水土文化研究部会	第8回研究会	 水利遺産の価値と今後の活かし方	東京都	79巻1,2号
平成23年3月4日	材料施工研究部会	第48回シンポジウム	 ストックマネジメント導入における成果と今後の展開(仮題)	東京都	78巻12号 79巻1,2号
平成23年8月25, 26日	農村計画研究部会	第33回現地研修集会	 未来への農業水利施設の継承	弘前市	79巻2号
平成23年9月6~9日	大会運営委員会	平成23年度農業農村工学会大会講演会		福岡市	78巻12号 79巻1号

第79巻第3号予定

展望：千賀裕太郎

小特集：農村における生物多様性の保全

- ①水田水域における環境修復の取組みと課題：水谷正一
- ②水路と水田の生態系：森 淳
- ③環境修復のハード技術：鈴木正貴
- ④環境修復のソフト技術：広田純一

技術レポート

- 北海道支部：コスト縮減のための路上路盤再生工法の改良事例：芳賀是則ほか
 東北支部：泉田川地区におけるストックマネジメントへの取組み：岩倉達也ほか
 関東支部：福岡導水揚水機場ポンプ設備更新におけるコスト縮減：入嶋直也ほか
 京都支部：農道橋におけるPCコンボ橋の施工―広域農道岩湧地区での事例―：殿貝健一
 中四国支部：ティフブレア(センチピートグラス)による畦畔法面カバープランツ試験施工：出口義大
 九州支部：DSM(数値表層モデル)データの有効性：安田喜輝ほか

小講座：再生可能エネルギー：小林 久

私のビジョン：メタン発酵消化液の液肥利用を根付かせるために：中村真人

「大地とともに—ある農用地技術集団の55年—」の刊行について（再）

森林総合研究所森林農地整備センターの農用地部門は、前身である農地開発機械公団の設立以来、半世紀以上にわたり農業農村基盤の整備において常に先駆的役割を果たしてきました。しかし、同センターの農用地部門は、現在実施中の事業の完了をもってその役割を終えようとしています。この「大地とともに—ある農用地技術集団の55年—」は、同センター内で記念誌として出版の準備を進めていたところ、農業農村工学の歴史として承継すべき出版物と考え、農業農村工学会が同センターとともに発刊することになり、下記のとおり10月末に刊行しました。

記

書名 大地とともに—ある農用地技術集団の55年—

体裁 B5判 9ポイント組 本文約430ページ

価格 定価7,000円（税込・送料学会負担）

会員特価4,500円（税込・送料学会負担）

※在庫がなくなり次第販売は終了となります。購入希望の方は、申込方法について連絡先にお問い合わせ下さい。

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社) 農業農村工学会事務局 図書係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

学会誌および論文集の英文名変更について（再）

学会誌編集委員会・論文集編集委員会

学会誌編集委員会と論文集編集委員会では、それぞれの英文名について検討を行い、変更案について学会誌第78巻第6号において告知し、会員各員のご意見を伺ってまいりました。

その結果、第216回理事会（平成22年9月10日）において下記のように決定いたしました。

第79巻第1号（学会誌は平成23年1月、論文集は平成23年2月）より新英文名に変更となります。

新英文名

学会誌：Water, Land and Environmental Engineering

論文集：Irrigation, Drainage and Rural Engineering Journal

論文集のJ-STAGE（電子ジャーナル）公開と投稿時の振込金について（再）

論文集編集委員会

論文集のJ-STAGE（電子ジャーナル）への登載について、かねてより準備を進めておりましたが、このほど準備が整い第259号から第264号が公開されています。第265号（平成22年2月発行）以降は発行の1年後の公開となります。有効活用いただきますようお願い申し上げます。

下記URLよりご覧下さい。

【J-STAGE トップページ】

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

【学会 日本語ページ】

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsidre/-char/ja>

【学会 英語ページ】

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsidre>

論文集のJ-STAGEへの登載に伴い、論文集投稿時の振込金に変更されています。これまで投稿料16,000円を投稿時にお

振り込みいただいておりますが、J-STAGEへの登載料4,000円（J-STAGEへの登載料は5,000円ですが、1,000円は従来の投稿料から捻出することとし、4,000円を新たに負担いただきます。）についてもあらかじめ徴収することとし、平成22年4月1日受付分より合計20,000円をお振り込みいただいております。

その理由としては、論文集の発行と同時にJ-STAGEへ登載するためにJSTに支払う必要があるからです。

ただし、審査の結果、投稿論文等が掲載不適となった場合は、登載料4,000円は返金いたします。

なお、論文集259号以降に掲載された論文等についての登載料は遡って著者に請求させていただきますので、ご了承いただきたくよろしくお願い申し上げます。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

学会誌を出典とした CPD 通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間 24 CPD ポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

なお、学会誌平成 22 年 2 月号に掲載された通信教育問題から配点を改正（正解率 70% 以上の場合 1.0 CPD ポイントから 1.5 CPD ポイントへ、正解率 100% の場合 1.5 CPD ポイントから 2.0 CPD ポイントへ）いたしました。詳細については、第 53 回通信教育問題（学会誌平成 22 年 2 月号 65 ページ）をご参照下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつ CPD 会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) にある参加申込書に必要事項を記入してメール (E-mail: kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、技術者継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限 参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成します。回答はメール (E-mail: kaito@cpd.jsidre.or.jp) で機構に送信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2.0 CPD ポイントが取得でき、CPD 会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

5. 通信教育受講者の特典

採点結果は自動入力されますので、毎年 4 月中に取得した点数を本人にお知らせし、5 月上旬から希望により有料で「CPD 取得証明書」を発行します。

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 21 年度までに 54 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採

用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大

な被害が発生した自然災害」, 「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して, 災害発生後, 直ちに災害対応調査団を派遣し, 調査の実施, 復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで, 災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に, 早急に対応できるよう, 調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果, 登録された会員は, 災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して, 緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお, 災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は, 以下のとおりです。

① 調査団の候補者は, 高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

② 派遣する調査団員は, 候補者名簿の中から選定する。

③ 調査団の派遣期間は, 原則2~3日とする。

④ 調査団派遣に関わる旅費は, 農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

⑤ 調査団員に対して, 調査に必要と考えられる保険を掛ける。

⑥ 調査団は, 調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ, 学会事務局 FAX 03-3435-8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお, 登録いただいた個人情報, 災害対応調査にのみ活用し, 適切に取り扱います。

四季折々の美しい農村地域における農業施設・構造物で表紙を飾ろう!! 「水土の知(農業農村工学会誌)」平成24年秋季~冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では, 平成24年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国において, 土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は, 農地を形成し, 水を送り, 物と人をつなぎ, 連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは, 長年の風雨にさらされながらも, 機能を保ち続け, その地域の自然や文化に溶け込み, 農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は, 地域の人々によって大切に守り, 管理された結果, 四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま, 日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき, 忙しい業務の合間にも, 足を止め, 手を休めて写真として記録していただき, 広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物: 先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第80巻(平成24年1~12月号)のうち, 特に秋季~冬季のもの

3. 写真の種類

単写真, 組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は, その旨明

記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが, 未発表のものに限ります。

5. 締切

平成23年3月31日(秋季~冬季の写真)

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第80巻第1号で採用作品と掲載号を発表し, 採用作品は平成24年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また, 応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History(表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は, 採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお, 些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから, 募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか, 表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には, 農業施設・構造物の形状や機能が, その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと), また, デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること, が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより, 応募票をダウンロードし, タイトル,

郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (社) 農業農村工学会
 農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係
 ☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
 E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 79 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
79 巻 3 号 農村における生物多様性の保全	公募なし
4 号 地域に貢献する「水土」の改善 (仮)	公募終了
5 号 土構造物および土中構造物数値解析とその適用 (仮)	公募終了
6 号 九州の地域特性に合わせた農業農村整備	公募なし
7 号 縮小する社会における農業農村整備のかたち (仮)	公募終了
8 号 若者や消費者と農業・農村のかかわり (仮)	平成 23 年 3 月 25 日
9 号 農業土木遺構にみる技術の粋 (仮)	平成 23 年 4 月 25 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
 ☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
 E-mail : henshu@jsidre.or.jp

79 巻 8 号テーマ「若者や消費者と農業・農村のかかわり」(仮)

過疎化や高齢化の進行により、地域コミュニティの維持が困難になっている農村が増えつつあります。しかし、その一方で最近、さまざまな形で若者や消費者が積極的に農業・農村にかかわる動きが出てきています。その背景には、農業・農村の将来への危機感、食・農村・自然への関心の高まりがあるとされています。最近の若者や消費者と農業・農村のかかわりは実に多様です。経営コンサルタントをしていた若者が農業法人を立

ち上げ自ら就農した例、「ノギャルプロジェクト」と呼ばれる米の栽培と販売を通じた農村活性化活動への参加、大学生による規格外野菜販売の支援、消費者による援農ボランティア活動など、さまざまな活動が行われています。

本小特集では、若者や消費者と農業・農村のかかわりに関する報文を広く募集します。

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと
 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2011 年 3 月末に Vol.9, No.1 が発刊される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみ

ならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)

- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
 - ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
 - ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
 - ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
 - ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
 - ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
 - ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。
- 国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年

4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は, 学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお願いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は, 機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊, 2011年3月末に Vol. 9, No. 1 が発刊される予定です。

わが国においても学術誌の評価に, SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており, 本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指してきました。

また, 世界13カ国から Editor (23名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに, 年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが, 投稿料, 掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力が実り, 2009年12月, 本ジャーナルがトムソン・ロイター社の SCIE に収録され, インパクトファクターを獲得したというビッグニュースが飛び込んできました。詳細については Editor-in-Chief による海外ニュースが本誌78巻1号88ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) は, 台湾です。また, 2010年10月1日付で, これまで編集長を勤めていただいた中野芳輔先生から, 溝口 勝先生に編集長の交代がありましたのでご報告します。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467 FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は, 水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• Editors 13カ国から23名

• Editing Board 35名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBU

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Jin-Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）
 投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載していま
 す。

水土文化研究部会第8回研究会の開催について（第2報）

技術者継続機構認定教育プログラム申請中



（社）農業農村工学会のビジョン『新たな〈水〉の知の定礎に向けて』において、「水土」は「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」と定義されている。

そこで複合系としての水利遺産への認識を深めるために、「水利遺産の価値と今後への活かし方」と題して、第8回水土文化研究会を開催する。

1. 日 時 平成 23 年 3 月 1 日（火）13 時～16 時
2. 場 所 農林水産共済組合 南青山会館「3, 4 号室」
〒107-0062 東京都港区南青山 5-7-10
☎03-3406-1365

3. プログラム（表題は変更されることがあります）

講演

- 「近世以前の農業・土木遺産の全国調査にみる水利遺産の現状と価値判断」 岡山大学教授 馬場俊介
 「古代水路「裂田の溝（うなで）」と近世「石井樋」の水利施設としての類似性」 九州大学教授 島谷幸宏
 「質疑応答」

4. 参加料 無料

5. 申込方法および連絡方法

〒305-8609 茨城県つくば市観音台 2-1-6

（独）農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所
 施設資源部 首席研究員室（担当 後藤真宏）

☎029-838-7591 FAX 029-838-7609

E-mail: griese@affrc.go.jp

6. 参加申込要領

整理の都合上、2月18日（金）までに以下の要領にてお申し込み下さい。

氏 名	(CPD 番号)
所属機関	
所在地	
電話番号	
FAX 番号	

* 部会員以外の方も参加できます。

*（社）土地改良建設協会研修会との連携行事となっています。

第48回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第3報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会材料施工研究部会
2. テーマ 「ストックマネジメント導入における成果と今後の展開」
3. 講 師 農林水産省・研究機関・大学・自治体・民間の研究者および技術者（予定）
4. 期 日 平成 23 年 3 月 4 日（金）10：00～16：00
5. 会 場 星陵会館
〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-16-2
http://www.seiryokai.org/kaikan.html

6. プログラム

開会式 10：00～10：10

材料施工研究部会研究奨励賞授与式 10：10～10：40

講演発表 10：50～15：00

<基調講演>10：50～11：50

「コンクリートの耐酸性・耐久性研究とストックマネジメントとの関わり」

鳥取大学農学部生物資源環境学科教授 服部九二雄

（昼食）

<一般講演>13：00～15：00

(1) 農業水利施設の長寿命化技術の体系化にむけて

農村振興局整備部設計課施工企画調整室
 課長補佐 森井秀之

(2) スtockマネジメントを支える情報技術—農業水利ストック情報データベースシステム—

関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所
 技術調整官 池山和美

(3) スtockマネジメント導入における成果と今後の展開—アセットマネジメント導入へ向けてのアプローチとしての一考察—

(株)三祐コンサルタンツ総合技術アセットマネジメント部
 第3課参事 阿部幸継

(4) 水力発電所土木設備における設備維持管理方策について

東京電力(株)電力流通本部工務部
 工務土木グループマネージャー 岡田和明

パネルディスカッション 15：15～16：00

閉会式

(※講師およびテーマに変更・追加がある場合があります)

7. 参加費 4,000 円

当日、受付にて徴収させていただきます。

8. 申込み

以下の項目をご記入の上、FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。その際、標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。

①参加者氏名 ②所属機関名 ③所在地 ④ TEL, FAX, E-

mail アドレス ⑤弁当 (代金¥1,000) 予約注文希望の有・無

E-mail : kinou@naro.affrc.go.jp

9. 申込先 〒305-8609 つくば市観音台 2-1-6
 農村工学研究所水利施設機能研究室気付
 材料施工研究部会事務局
 申込受付担当: 中嶋 勇, 森 充広
 ☎029-838-7573 FAX 029-838-7609

10. 申込締切 平成 23 年 2 月 18 日 (金)
 11. 宿泊 各自で手配して下さいますようお願いいたします。
 12. 問合せ先 申込先と同じです。

農村計画研究部会第 33 回現地研修集会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日時

平成 23 年 8 月 25 日 (木) 研修集会
 平成 23 年 8 月 26 日 (金) 現地検討会

2. 開催場所 (予定)

青森県弘前市

3. 内容 (予定)

テーマ: 未来への農業水利施設の継承

4. 問合せ先

農村計画研究部会現地研修集会運営事務局
 〒036-8561 青森県弘前市文京町 3
 弘前大学農学生命科学部地域環境工学科
 藤崎浩幸
 E-mail : fusa@cc.hirosaki-u.ac.jp
 TEL & FAX 0172-39-3855

農業農村工学会選書 17

機能保全における性能設計入門

(社) 農業農村工学会発行

目次

第 1 章 性能設計の現状

- 1.1 はじめに
- 1.2 包括設計コード
- 1.3 性能設計の技術論的特徴
- 1.4 他分野の状況
- 1.5 農業・農村整備事業と性能設計
- 1.6 性能設計とストックマネジメント(マクロマネジメント)
- 1.7 補修・補強と性能規定化(ミクロマネジメント)
- 1.8 性能設計の到達点

第 2 章 信頼性の照査

- 2.1 施設の信頼性
- 2.2 部分安全係数法の理念と現状
- 2.3 レベル II 信頼性設計法
- 2.4 レベル I 信頼性設計法
- 2.5 感度係数とその意味
- 2.6 水利構造物に適した部分安全係数の値
- 2.7 開水路側壁基部の安全性に関する信頼性設計例
- 2.8 信頼性設計法の今後

第 3 章 安全性の照査

- 3.1 限界状態設計法の概要
- 3.2 構造物における安全性の照査

- 3.3 曲げモーメントおよび軸方向力に対する安全性の照査
- 3.4 せん断力に対する安全性の照査
- 3.5 終局限界状態の照査例

第 4 章 使用性の照査

- 4.1 使用限界状態の検討
- 4.2 断面力および応力度の算定法
- 4.3 曲げひび割れ発生の照査
- 4.4 曲げひび割れ幅の照査
- 4.5 ひび割れの使用限界状態の照査例
- 4.6 今後の課題

第 5 章 耐久性の照査

- 5.1 長期構造性能の照査
- 5.2 農業水利構造物の耐久性設計
- 5.3 性能照査型のコンクリートの配合設計
- 5.4 鉄筋コンクリート開水路の耐久性設計例

第 6 章 機能保全

- 6.1 農業水利施設の機能保全
- 6.2 農業水利施設の機能診断

第 7 章 施工および補修・補強

- 7.1 RC 開水路の施工
- 7.2 RC 開水路の補修・補強

A 5 判 約 200 ページ 定 価 4,500 円 (内税・送料学会負担)
 会員特価 2,600 円 (内税・送料学会負担)
 [会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋 5-34-4
 (社) 農業農村工学会
 ☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494